

日本岩石鉱物鉱床学会 渡邊萬次郎賞 第20回 受賞者

飯山 敏道 会員

飯山敏道(いいやま・としみち)会員は、岩石学、鉱物学、鉱床学のそれぞれの分野において活躍し、多数の重要な論文を国際誌に発表して来た。飯山会員の今までの研究内容は以下の7つにまとめられよう:(1)造岩鉱物の物理的性質(特に、多形、電気伝導)についての研究、(2)熱水条件下でのイオン交換平衡とその地球化学、熱力学、微量元素分配、熱水溶液の電離度に関する挙動や複雑系の相関係の研究、(3)地殻内の物質移動やメタソマティズムの機構についての研究、(4)鉱床、特にスカルンの成因についての研究、(5)花崗岩の岩石学的研究、(6)コンクリートの早期劣化、セメントの鉱物、歯科用セメント材料などの応用鉱物学的研究、(7)KAIKO 計画への参画、オマーン・オフィオライトの構造地質学や深海潜水観察調査などの地質学的研究。

これらのうち、熱水溶液-鉱物間のイオン交換平衡を用いての各種元素の分配や固溶体の熱力学的性質についての研究等は、国際的に特に高く評価されている。さらに飯山会員は、岩石学・鉱物学・鉱床学の深い造詣に基づいて「鉱床学概論」、「実験地球化学」、「地球鉱物資源入門」、「日本周辺の世界」等を著作し、「歯科材料学」、「気候の未来」等を翻訳した。この幅広い分野における活発な啓蒙活動は、まさに飯山会員の真骨頂が発揮されたものである。飯山会員は、今年も「フランスワイン・テロワールアトラス」を翻訳監修し、フランスのぶどう畑の地質とワインの味の関連を詳述した。

また、飯山会員の活動で特記すべき点は、広範な学会活動、大学、政府等における委員会活動および国際交流である。特に、地球科学者の立場からの日本-フランス間の学術・文化交流への貢献は、フランス国家功労章騎士号、フランス国家功労賞士官号の叙勲からもわかるように、余人の追隨を許さないものである。また、英文校閲者として黎明期の「Journal of Mineralogical and Petrological Sciences」誌を支え、英文国際誌として認められる基盤を作った業績は大きい。

以上のような多大な業績に対し、飯山敏道会員を渡邊萬次郎賞第20回受賞者として推薦する。

飯山敏道会員の略歴

1927年(昭和2年) 10月25日生まれ
 1951年(昭和26年) 東京大学理学部地質学科卒業
 1954年(昭和29年) 東京大学大学院前期課程(旧制)修了、東京大学 理学部助手
 1955年(昭和30年) 東京医科歯科大学歯科材料研究所助手
 1957年(昭和32年) 東京医科歯科大学歯科材料研究所助教授、フランス政府給費留学生としてパリ大学理学部大学院博士課程入学
 1959年(昭和34年) フランス科学研究院 (Centre National de la Recherche Scientifique, 略称 C.N.R.S.) 副手
 1960年(昭和35年) パリ大学理学部博士課程修了、フランス国家理学博士C.N.R.S.助手
 1964年(昭和39年) C.N.R.S.助教授
 1970年(昭和45年) C.N.R.S.教授
 1976年(昭和51年) 東京大学理学部教授
 1987年(昭和62年) 千葉大学理学部教授
 1993年(平成5年) 千葉大学定年退官
 1994年(平成6年) 国士舘大学教授
 2002年(平成14年) 国士舘大学定年退職、現在に至る

----- 学会・社会活動に関する履歴 -----

1979年(昭和54年) フランス鉱物学会副会長
 1980年(昭和55年) 日本資源地質学会(旧日本鉱山地質学会)副会長
 1983年(昭和58年) フランス、オルレアン大学名誉博士
 1984年(昭和59年) 東京大学評議員、測地審議会臨時委員、鉱業審議会委員
 1985年(昭和60年) フランス国家功労章騎士号、地球化学研究協会三宅賞選考委員(1993年より理事、2004年より同会理事長)
 1986年(昭和61年) 日本資源地質学会会長
 1988年(昭和63年) 東京大学名誉教授、日仏会館(財)学術委員(2001年より委員長)
 1990年(平成2年) フランス国立太平洋大学科学文化評議員
 1992年(平成4年) 日仏政府間科学技術諮問委員会委員
 1997年(平成9年) 日仏会館常務理事
 1998年(平成10年) フランス国家功労賞士官号

日本岩石鉱物鉱床学会
 渡邊萬次郎賞審査委員会
 委員長 荒井 章司